地域医療キャリア形成支援センター

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

- 二宮 朋之(副院長、地域医療キャリア形成支援センター長)
- 杉山 圭三(総合診療科部長、総合診療センター副センター長、臨床研修センター副センター長、地域医療キャリア形成支援センター副センター長)

<医局(地域医療キャリア形成支援センター勤務)>

- 越智 麻理絵(救急科医長)
- 野間 章裕(総合診療科医長)
- 岡田 将誉(形成外科・顎顔面外科医長)
- 大西 慶(消化器内科医長)
- 濱田 徹(呼吸器内科医長)
- 久保 仁(鬼北町立北宇和病院内科)

2. 運営方針

地域医療キャリア形成支援センター(以下、「センター」)は、義務年限終了後の自治医科大学卒業医師やその他の医師等がセンターに所属し、当該医師等(以下、「センター所属医師」)が地域医療に従事しながら、医療技術の向上および専門医資格の取得等ができる環境をセンターとして整備することにより、センター所属医師のキャリア形成を支援するとともに、県内定着を促し、地域医療提供体制の確保に資することを目的としています。

2020年4月1日付けで知事(愛媛県医療対策課)の要請により設置しました。

(1) センター所属医師のキャリア形成支援

センター所属医師の個々のキャリアプランに応じて、院内外における研修機会の確保および専門医資格取得に向けた関係機関(者)との調整、個別相談への対応等を行います。

(2) 地域の医療機関への支援

(1)を踏まえ、地域の医療機関の医師不足の状況を把握し、センター所属医師の派遣の調整を行います。ただし、派遣先は県内の県立病院または公立病院、へき地診療所に限ります。

3. 実績

センター所属の医師のうち6名が診療支援を行いました。鬼北町国保三島診療所に1名、松野町国保中央診療所に1名、伊方町国保瀬戸診療所に1名、上島町魚島国保診療所に2名、大洲市国保河辺診療所に2名、西予市民病院に4名、県立南宇和病院に4名、県立新居浜病院に2名が診療支援を行い、キャリア形成を図りました。

1名が消化器内視鏡学会専門医、2名が地域包括医療・ケア認定医、2名が地域総合診療専門医・指導医を取得しました。

4. 2025年度目標

センター所属医師の要望を十分に聴き、希望するキャリア形成のために必要な支援を行います。

5. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 岡田将誉、中川浩志、石野憲太郎、土居未歩(左記当院形成外科・顎顔面外科). S 状結腸憩室穿通により生じた腰部広範囲壊死性筋膜炎の1例. 第84回国形成外科学会学術集会. 高知 (2024.2.4)
- 久保仁、大坪治喜、白岡朗、渡部真志、京樂格、岡本憲省(左記当院脳神経内科)、城戸信輔、日浅豪(左記当院循環器内科). 当院における卵円孔閉鎖術の妥当性に関する臨床的検討. 第15回国神経懇話会. 高松 (2024.2.17)
- 久保仁、大坪治喜、白岡朗、渡部真志、京樂格、岡本憲省(左記当院脳神経内科)、城戸信輔、日浅豪(左記当院循環器内科). 当院における卵円孔閉鎖術の妥当性に関する臨床的検討. 第65回日本神経学会学術大会. 東京 (2024.5.29-6.1)
- 久保仁、大坪治喜、白岡朗、渡部真志、京樂格、岡本憲省(左記当院脳神経内科). 多発性筋炎の経過中に免疫性血小板減少症を生じ大量免疫グロブリン療法が有効であった1例. 第115回日本神経学会中国・四国地方会. 出雲 (2024.6.22-23)
- 濱田徹、井上考司、渡部真志、切土博仁、宗石翔、相原健人、能津昌平、中村純也、近藤晴香、橘さやか、勝田知也、中西徳彦(左記当院呼吸器内科). 免疫チェックポイント阻害薬によって傍腫瘍神経症候群の悪化が見られた進展型小細胞肺癌の1例. 第70回日本呼吸器学会中国・四国地方会・第62回日本肺癌学会中国・四国支部学術集会. 鳥取 (2024.7.19-20)
- 岡田将誉、中川浩志、石野憲太郎(左記当院形成外科・顎顔面外科). 当院で経験した劇症型A群溶血性連鎖球菌感染症による壊死性軟部組織感染症4例の検討. 第53回愛媛形成外科研修会. 松山 (2024.11.16)
- 久保仁、吉田暉、大坪治喜、白岡朗、渡部真志、京樂格、岡本憲省(左記当院脳神経内科). 左前頭葉白質病変にて急性の運動性失語を呈した視神経脊髄炎スペクトラム障害(NMOSD)の1例. 第116回日本神経学会中国・四国地方会. 米子 (2024.11.16)